

本物。品訪

鹿児島県 特産 特探

2011かごしまの新特産品コンクール
鹿児島県特産品協会理事長賞

薩摩焼アクセサリーボックス 「吉祥文玉手箱」

縁起のよい吉祥文様をあしらった薩摩焼アクセサリーボックス「吉祥文玉手箱」。従来の薩摩焼の形式にとらわれない斬新なデザインが目を引きまします。作者である指宿市の絵付工房 秋月窯の西田秋雄さんにお話を伺いました。

「玉手箱」というネーミングがいいですね

こだわったポイントは

作品作りで大切にしているのは

龍宮伝説の発祥の地とも言われている、指宿市の長崎鼻にある龍宮神社に由来していて、形も玉手箱に見立てています。お香を入れる香合（かみあ）からヒントをもらい、サイズを少し大きくしてアクセサリーボックスとして仕上げました。絵付けが専門ですが、今回の玉手箱は、生地の作成から全て自分で行っていきます。大切な小物をしまおう飾り箱として、特にアクセサリーを身につける機会の多い女性の方に使ってもらいたいです。見た目にも存在感があるデザインなので、インテリアとしても飾っていただきたいですね。



一部分の絵柄も、一つ一つ丹精込めて描かれています

今回の作品で一番こだわったところは、片側だけではなく、方向を問わずにふたが合わるように作ることでした。焼くことで、縮んで形が変わってしまうため、焼き上がりを確認するまでは毎回緊張します。新たに八角形の玉手箱を制作しましたが、全てがきれいに合わるように作るのは難しかったですね。お客さまに完璧な作品をお渡しできるように、同じものを一度に3、4個作りますが、焼き物には人間の手ではどうにもできない部分が多く、窯に入れる時は今でも祈るような気持ちです。それでも、完成度の高い作品を作っていくためには、窯や粘土の状態を適切に把握できるように経験が積むことが大切だと思います。なかなか思い通りにいかないところが、薩摩焼の難しいところでもあり面白いところですね。



「2月に東京で開かれた『テーブルウェア・フェスティバル2012』では、珍味を入れる器として使用されたんですよ」と話す西田さん

伝統的工芸品である薩摩焼を残していくためには、伝統技法を守りつつ、新しい要素を取り入れて、今の時代や生活スタイルに合わせていくことも大切だと思います。伝統的工芸品は、日常生活で使われてこそ本来の役割を果たすもの。そのためにも、幅広い年代の方々に良さを知ってもらい、日常生活で気軽に使ってもらえるように薩摩焼のイメージを変えていきたいです。今後も、薩摩焼の魅力である潤いや、癒やしを感じてもらえるような作品を作り続けていきたいですね。



薩摩焼アクセサリーボックス
「吉祥文玉手箱」

税込33,600円 (72mm×57mm×48mm)

プレゼントコーナー

薩摩焼の湯飲みを5名様にプレゼント。(絵柄は、それぞれ異なります。)

応募締切 平成24年4月27日(金)

応募方法 ハガキ、FAXまたはメールに
①「グラフかごしま」に関するご意見・ご感想 ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥職業
⑦電話番号を記入のうえ、下記までお送りください。

はがき宛先 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1 鹿児島県広報課「グラフかごしまプレゼント係」

FAX 099(286)2119 (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

メール h-kikaku@pref.kagoshima.lg.jp (件名は「グラフかごしまプレゼント」)

※いただいた個人情報は、プレゼント送付以外の目的には利用しません。
※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。



絵付工房 秋月窯
〒891-0403
指宿市十二町321-4
電話 0993-24-2427